

東宝見聞録

家庭訪問・三者面談期間やゴールデンウィークも終わり、1年生にとっては高校に入って初めての中間考査も終わりました。結果を反省し次回につなげて欲しいと思います。今回は、4月22日～27日に行われた中国短期派遣の報告を中心に取り上げます。

中国短期派遣報告

中国短期派遣 in 天津【前編】(4月22日～27日)



5名の生徒と引率3名を乗せた飛行機は、予定より20分も早く飛び立った。経由地の青島空港では、タラップを降りると、本来禁止されている飛行場内での記念撮影を空港の係員に撮ってもらうことができた。

まずは緊張の入国審査。搭乗ゲートに着くと時間があつたので生徒達はショップに入り物価を確かめていた。



ふと耳を澄ますとすでに搭乗が始まっていた。慌てて生徒達を探し、ゲートを通過させ、北京へ向け離陸した。

空港では匯文(カイブン)中の先生方に迎えられ、中国の地に足を下ろしたときもう暗くなっていた。学校のマイクロバスで一路天津へと向かった。初めて見る中国の地が暗くて見えなかったのは少し生徒は残念だっただろう。しかし、夕食用にもらった中国版ケンタッキーのチキンバーガーが独特なピリ辛味でおいしかった。



日本時間の10時を過ぎた頃、トイレ休憩も兼ねて高速道路サービスエリアのコンビニに入った。生徒たちの初めての中国での買い物である。恐る恐る

学校で習った中国語で買い物をしていた。

3時間ほど車に揺られ、やっと匯文中に着いたのは日本時間の夜11時過ぎで、校長先生や寮担当の先生方に迎えて頂

いた。生徒の宿泊するのは元々、職員用の寮で二人部屋だった。緊張の1日目が終わった。

二日目の朝8時半頃に寮の2階の部屋に入ると各生徒たちは期待にあふれた表情だった。これからホスト役の中国の生徒らとそれぞれ天津市内観光である。学校で学んだ中国語が発揮される時だった。後で



聞いた話では、中国語・英語・日本語・ゼスチャーなど、あらゆる方法でコミュニケーションをとったらしい。

三日目は、匯文中の校内を案内してもらった。中学生から高校生まで千人近くの生徒が学んでいる大きな学校に見えたが、中国ではそれほどでもないらしい。歴史資料室や図書室を見学してから、生徒は中国の生徒と一緒に



音楽の授業を受けた。生徒たちは、初めに東高校の校歌を歌い、大きな拍手で授業に迎えられた。その後、生徒たちは

地理の授業を参観した。言葉は分らなかったが貿易に関する内容で楽しかったようである。



午後は、生徒らと引率者で天津市内の古文化街の散策と買い物をした。中国の古い町並みが残っている観光地である。多くのお土産屋さんがあり声をかけ



られた。生徒たちも片言の中国語で値切りながら買い物ができたようで感動していた。中国の旅の前半が終わろうとしていた。(参加生徒女子4名男子1名、引率3名)